

2019年度幾何学 III 演習問題 5 v1

'19/11/28 (木)

改変履歴. '18/11/28 : (v1) 初版作成. 概ね 11/26 の講義の分までの内容である.

Lie 微分

問 5.1. X をベクトル場とし, $\{\varphi_t\}$ を X に附随する一径数局所変換群 (フロー) とする. ω を (r, s) -テンソルとすると, 以下は同値であることを示せ.

- 1) $(\varphi_t)_*\omega = \omega$ が (絶対値が) 十分小さな t について成り立つ. ただし, 共変テンソル (微分形式) α については $\varphi_*\alpha = (\varphi^{-1})^*\alpha$ と定める.
- 2) $L_X\omega = 0$ が成り立つ.

これらの同値な条件が成り立つ時, ω は X により不変である, あるいはより短く X -不変であるなどと言う.

テンソルの縮約, Einstein の規約

問 5.2. テンソルの縮約は well-defined であることを示せ.

問 5.3. Lie 微分と縮約は可換であることを示せ.

問 5.4. T を (r, s) テンソル場とし, 局所的に

$$T = \sum_{\substack{i_1, \dots, i_r \\ j_1, \dots, j_s}} T^{i_1, \dots, i_r}_{j_1, \dots, j_s} \frac{\partial}{\partial x^{i_1}} \otimes \dots \otimes \frac{\partial}{\partial x^{i_r}} \otimes dx^{j_1} \otimes \dots \otimes dx^{j_s}$$

と表す. $1 \leq a \leq r$, $1 \leq b \leq s$ とし, i_a と j_b に関して T の縮約を取って得られる $(r-1, s-1)$ テンソルを S とする.

1)

$$S = \sum_{k=1}^n \sum_{\substack{i_1, \dots, \widehat{i_a}, \dots, i_r \\ j_1, \dots, \widehat{j_b}, \dots, j_s}} T^{i_1, \dots, \overset{a}{k}, \dots, i_r}_{j_1, \dots, \underset{b}{k}, \dots, j_s} \frac{\partial}{\partial x^{i_1}} \otimes \dots \otimes \widehat{\frac{\partial}{\partial x^{i_a}}} \otimes \dots \otimes \frac{\partial}{\partial x^{i_r}} \\ \otimes dx^{j_1} \otimes \dots \otimes \widehat{dx^{j_b}} \otimes \dots \otimes dx^{j_s}$$

が成り立つことを示せ.

2) Einstein の規約を用いると,

$$S = T^{i_1, \dots, \overset{a}{k}, \dots, i_r}_{j_1, \dots, \underset{b}{k}, \dots, j_s} \frac{\partial}{\partial x^{i_1}} \otimes \dots \otimes \widehat{\frac{\partial}{\partial x^{i_a}}} \otimes \dots \otimes \frac{\partial}{\partial x^{i_r}} \\ \otimes dx^{j_1} \otimes \dots \otimes \widehat{dx^{j_b}} \otimes \dots \otimes dx^{j_s}$$

と表されることを確かめよ.

問 5.5. $\mathbb{R}^n, \mathbb{R}^m$ の標準的な基底をそれぞれ $\mathcal{E} = \{e_1, \dots, e_n\}$, $\mathcal{F} = \{f_1, \dots, f_m\}$ で表す. また, $F: \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}^m$ を線型写像とし, $A = (a_{ij})_{i,j} \in M_{m,n}(\mathbb{R})$ を $(\mathcal{E}, \mathcal{F})$ に関する F の表現行列とし,

$$\varphi = \sum_{i,j} f_i a_{ij} e_j^*$$

と定める.

- 1) $\varphi \in \mathbb{R}^m \otimes (\mathbb{R}^n)^*$ が成り立つことを示せ. テンソル積の順序はあまり気にしなくて良い (以下同様).
- 2) $v \in \mathbb{R}^n$ について,

$$\varphi(v) = \sum_{i,j} f_i a_{ij} e_j^*(v)$$

と定めれば,

$$\forall v \in \mathbb{R}^n, F(v) = \varphi(v)$$

が成り立つことを示せ.

- 3) $v \in \mathbb{R}^n$ について $\varphi \otimes v \in \mathbb{R}^m \otimes (\mathbb{R}^n)^* \otimes \mathbb{R}^n$ を考える. $\gamma: \mathbb{R}^m \otimes (\mathbb{R}^n)^* \otimes \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}^m$ を第二成分と第三成分に関する縮約とすると, $v \in \mathbb{R}^n$ について

$$\gamma(\varphi \otimes v) = F(v)$$

が成り立つことを示せ.

問 5.6. M を多様体とし, $\{(U_\alpha, \varphi_\alpha)\}_{\alpha \in A}$ を M の座標近傍系とする. また, $\varphi_\alpha(U_\alpha)$ の座標を $(x_\alpha^1, \dots, x_\alpha^n)$ とする. さて, $\varphi_\alpha(U_\alpha \cap U_\beta)$ 上で $\varphi_{\beta\alpha} = \varphi_\beta \circ \varphi_\alpha^{-1}$ と置く. 各 $\alpha \in A$ について, U_α 上の函数族 $\{T_\alpha^{i_1, \dots, i_r}_{j_1, \dots, j_s}\}$ が定まっています,

$$T_\beta^{i_1, \dots, i_r}_{j_1, \dots, j_s} = T_\alpha^{k_1, \dots, k_r}_{l_1, \dots, l_s} (D\varphi_{\beta\alpha})_{k_1}^{i_1} \cdots (D\varphi_{\beta\alpha})_{k_r}^{i_r} (D\varphi_{\beta\alpha})_{l_1}^{j_1} \cdots (D\varphi_{\beta\alpha})_{l_s}^{j_s},$$

ただし, $D\varphi_{\beta\alpha}$ の (i, j) 成分を $(D\varphi_{\beta\alpha})^i_j$, $(D\varphi_{\beta\alpha})^{-1}$ の (i, j) 成分を $(D\varphi_{\beta\alpha})_i^j$ でそれぞれ表す, が成り立つことと,

$$T = \sum_{\substack{i_1, \dots, i_r \\ j_1, \dots, j_s}} T_\alpha^{i_1, \dots, i_r}_{j_1, \dots, j_s} \frac{\partial}{\partial x_\alpha^{i_1}} \otimes \cdots \otimes \frac{\partial}{\partial x_\alpha^{i_r}} \otimes dx_\alpha^{j_1} \otimes \cdots \otimes dx_\alpha^{j_s}$$

とすると, T は大域的に定まった (r, s) -テンソルであることは同値であることを示せ.

※ 伝統的には物理では前者の記述が, 数学では後者の記述が好まれる傾向にある.

(以上)